

令和8年度第1回 立川市入札等監視委員会審議概要

開催日及び場所	令和8年5月25日(月) 立川市役所 201 会議室		
出席委員氏名	小畑徳彦 委員長、小林大祐 委員、加藤正太 委員		
審議対象期間	令和7年11月1日～令和8年3月31日		
抽出案件	工事 25 件 委託 0 件 総件数 25 件	(備考)	
うち一般競争入札	工事 17 件 委託 0 件 総件数 17 件		
うち特命随意契約	工事 8 件 委託 0 件 総件数 8 件		
次 第			
1 委員長あいさつ			
2 議事			
(1) 審議			
ア 令和7年度工事契約抽出案件について(令和7年11月1日～令和8年3月31日)			
(2) 報 告			
ア 令和7年度工事契約の状況について			
イ 工事契約の推移(令和3年度～令和7年度)について			
ウ 令和7年度変動型最低制限価格(工事)について			
3 その他			
・入札等監視委員会の運営について			
・エレベーター入札状況について			
委員からの意見、質問及びそれに対する回答			
意見・質問		回 答	
1 委員長あいさつ			
2 議事			
(1) 審 議			
ア 令和7年度工事契約抽出 案件について (令和7年11月1日から 令和8年3月31日まで)		・対象期間に入札された、総価契約(以下、総価)・ 一般競争入札(以下、競争)の工事等契約につい て、説明した。 ・総価・競争の契約件数は 17 件、平均参加者数は 2.8 社、単純平均落札率は 88.83%だった。 ・変動型最低制限価格は 17 件中 7 件が算定で、算 定率は 41.2%で、算定となった案件の平均落札率 は 86.26%未算定となった案件は 90.62%であつ た。地域要件が市内のものは 13 件、都内が 4 件、 落札者の所在区分では市内が 15 件、都内が 2 件、であった。市内の落札率は 91.38%だった。 参加状況は辞退が 12 件、不参加が 1 件で、平均 参加者数は 3.5 者で、1 者入札が 5 件 29.4%だつ た。くじ引きになった件は 0 件だった。	

*工事内訳書で有価売却費は計上しているところと計上していないところがあるがルールはあるのか。 *共通仮設費が業者によって大きく変わるのはどうしてか。 *資材の高騰などで、既契約のものに関して変更契約を行っているのか。 *施設の LED 化は順次やっていかなければならない工事なので、緊急で特命随意契約でやるのではなく、計画的に競争入札できるのではないか。 (2) 報告 ア 令和 7 年度工事契約の状況に	・落札額 1 億円以上の高落札額契約は 0 件だった。 ・落札率 95%以上の総価・競争分の不調中止を除く 6 件について説明した。「北多摩二号処理区錦処理分区枝線改築工事」、「立川市旧健康会館受変電設備改修工事」、「立川市こぶし会館中規模改修工事（太陽光発電設備）」、「公園施設改修等整備工事（長寿命化対策）」、「公園維持整備工事」「立川市公共下水道管きょ等維持工事その 2」。 ・総価・特命随意契約（以下、特命）7 件について説明した。「立川市柴崎学習館舞台照明 LED 化工事」、「立川市柴崎市民体育館ミーティング室防火シャッター修繕工事」、「立川市柴崎市民体育館消火設備修繕工事」、「立川市総合リサイクルセンターピット等散水設備設置工事」、「立川市錦町ポンプ場 No. 2 雨水ポンプ用ディーゼルエンジン更新工事」、「立川市総合リサイクルセンター不燃ごみ処理ライン改修工事」、「公園維持整備工事その 2」。 ・設計では計上しなければならない。応札者の計上は任意である。 ・仮設の看板やカラーコーン等、原価償却期間が過ぎて安く出来たり、更新のタイミングで高くなったりする。 ・場合によってインフレスライドということで変更契約をしている。 ・LED 化はどこもなかなかやり手が見つからず、見積りも出てこない状況であり、やむを得ず特命になった。 ・契約件数は、令和 7 年度は 90 件で、うち競争が
--	--

について イ 工事契約の推移(令和3年度～令和7年度)について *入札参加者が結構減っているが事業者自体が減っているのか。 *入札をしても1者入札が増えていくことになる。 *市内要件で入札者が少なく落札率も上がっているなので地域要件を広げるとどうか。 *アンケートを取って辞退理由が分かれば対応もあるのではないかな。	71件、特命は19件。単価契約12件はすべて競争であった。 ・変動型最低制限価格は総価70件中30件が算定、算定率は42.9%。算定となった平均落札率は86.09%で前年79.3%から6.79ポイント上がっている。未算定の平均落札率は92.41%で前年は92.16%で0.25ポイント上がった。 ・くじ引きは1件だった。 ・地域要件は総価では市内が71件中46件。所在区分では71件中52件が市内業者で市内受注率は73.2%、平均落札率は市内が89.99%。市外は89.20%で市内の方が高くなっている。 ・平均応募者数、平均参加者数は令和6年度より減少した。 ・令和3年度から令和7年度までの工事契約推移について説明する。 ・総価・競争の契約件数は総合評価と合わせて71件、特命は19件、過去5年間での平均は108件だった。特命随意契約が増えている。 ・単純平均落札率は、ここ数年年々上がっている。 ・平均参加者数は、令和7年度は2.3者で年々下がっている。 ・登録者数が減ったり倒産が増えたりということはない。担い手不足が顕著である。 ・不調になれば次は工期を伸ばしたり、予定価格を増額したりして何回もやるのは市にとっても不利益になる。 ・2回目は地域要件を広げ、3回目は見積りを取る。 ・地域要件を広げても参加者は増えないケースもある。 ・入札参加を締め切った後に参加者のみに設計図書を交付するのでそれを見てできないという業者が多い。 ・共同利用のシステムであるため、アンケートを必須とするカスタマイズはできない。
--	--

ウ 令和7年度変動型最低制限価格(工事)について 3.その他 ・入札等監視委員会の運営について ・非常に詳細な資料だが、これで何を読むかは難しい。その手間を省略してもいいのではないか。 *了承。 ・エレベーター入札状況について *定型的な特命理由を設定する場合は内部の決裁手続きはどうか。 *了承。	・変動型最低制限価格が成立した案件が単価契約を含め 35 件、最低制限価格以下で無効になった案件が 6 件。無効の発生率が令和6年度は 8%、令和7年度は 17%である。変動型最低制限価格の算定率を上げたことにより発生率が上がったと考える。 ・今年度から、今年度 10 月までの案件を、第5回までで審議して頂きたい。必要に応じて緊急に開催する可能性もある。 ・総合評価方式、週休2日制度、公契約条例なども入り、契約台帳の作成に時間がかかってきている。監視委員会の資料作成にも時間的余裕を頂きたい。 ・準備期間の関係で、3回目と4回目の工事と委託の順番を変更させて頂きたい。 ・この3年間エレベーターの1者入札が続いている。令和7年は中止・不調で契約ができていない。ここ3年くらい先まで検証はしてきた。新築は競争で、現在建物があるものは特命で更新としたい。 ・3年後、5年後に同じ状況かどうかはかわらないのでその時にまた見直しを図っていく。 ・これから内部の契約制度等検討委員会にも諮って内規のようなものを決めてルール化していく。 ・次回の開催は令和8年6月15日（月）午後2時
---	---